

第14回  
「あらかわの心」

# カルタ大会

令和5年2月12日(日)、生涯学習センターで第14回「あらかわの心」カルタ大会が3年ぶりに開催されました。この大会は「荒川は笑顔とあいさつにあう町」から始まる「あらかわの心」カルタを使用して対戦するもので、カルタ遊びを通して「あらかわの心」推進運動について理解を深めてもらうことを目的としています。

今回は小学1～3年生が参加しました。この大会には「試合開始時に手は膝の上」、「お手付きは頭の上に手を置いて一回休み」などのルールがあります。

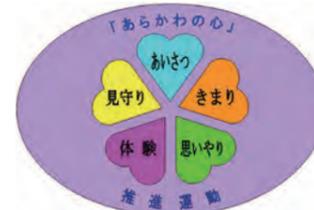
子どもたちはカルタの読み札や絵札を通し、楽しみながら「あらかわの心」について理解を深め、ルールを守ることの大切さを学ぶことが出来ました。これからも、カルタ大会を通して「あらかわの心」推進運動の輪が広がるよう、引き続き普及・啓発活動を続けていきたいと思ひます。



# 「あらかわの心」ニュース

第34号

令和5年  
3月6日発行



「あらかわの心」推進運動  
シンボルマーク

今号では、参加団体の活動報告や、第14回「あらかわの心」カルタ大会の様子についてお届けします。



あらいみ あら坊

## 「あらかわの心」 推進運動とは?

この「あらかわの心」を、次代を担う子どもに受け継いでいくため、「あらかわの心」推進運動では、

- まず大人が行動する
- 大人と子どもが一緒に行動する
- 地域ぐるみで子どもを見守り育てる

荒川区には、郷土と地域を愛し、人を思いやる温かくやさしい心が受け継がれてきました。

という3つの視点に基づき、

- 笑顔であいさつをしよう
- きまりを守ろう
- 思いやりをもとう
- いろいろな体験をしよう
- 見守り、声をかけよう

という心をつなぐ5つの取り組みを実践することで、大人も子どもも互いに尊重し、共に生きる地域社会の実現を目指す運動です。

## PR寸劇「あらかわの心」(カルタ編)を収録しました

「あらかわの心」推進運動区民委員会では、PR寸劇「あらかわの心」(カルタ編)を収録しました。

寸劇は「あらかわの心」カルタの読み札の中から、「心をつなぐ5つの取り組み」をテーマに、5作の読み札を物語化したもので、「あらかわの心」について楽しみながら理解してもらうものです。

物語では、子どもたちと地域の方々とのふれあいのなか、あいさつやきまりを守ることの大切さ、勇気を出して体験する気持ち、思いやりの行動や地域での子どもを見守りについて、画面越しの視聴者の皆さんに呼びかけながら、一緒に答えを考えていきます。最後には「あらかわの心」のシンボルマークであるハートマークも登場します。小さなお子さまでもわかりやすい内容となっております。

動画は右下のQRコードから視聴が可能です。また、DVDの貸出しも行っております。4ページに記載の事務局までご連絡ください。



収録の様子

「あらかわの心」カルタの読み札は、あいさつ・きまり・思いやり・体験・見守りの「心をつなぐ5つの取り組み」を表現した内容になっており、大人も子どもも楽しみながら、「あらかわの心」について一緒に考えていただけるカルタです。カルタは荒川区役所2階の児童青少年課窓口で販売しています。(一組500円)



### 【登場するカルタ】



- あ 荒川は 笑顔とあいさつ にあう町
- ま まちの中 めいわく駐輪 危ないよ
- お おばあちゃん いっしょにわたろう 小さな手
- い いいことは 進んでしよう 自分から
- た 大切な 命はぐくむ 地域の目

動画の視聴はこちらから



## アンケート

アンケートにお答えください。抽選で30名の方に「あらかわの心」オリジナルエコバックをプレゼント致します。郵送が電子申請によりご応募ください。

### ● 郵送の場合

はがきに、1.住所 2.氏名 3.電話番号 4.アンケート①②③④をご記入の上、本ページ左下宛先を切り取り、はがき宛先面に貼り付け、お送りください。

### ● 電子申請の場合

こちらのQRコードを読み込み、応募画面にお進みください。



### ● 締め切り

令和5年6月15日。当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

なお、いただいたご意見等は、ニュース等の広報誌で紹介させていただくことがありますので、ご了承ください。

### ● アンケート

①以前から「あらかわの心」運動を知っていましたか。

②「あらかわの心」運動を何で知りましたか。

③もっとも興味・関心をもった記事は何ですか。

④「あらかわの心」運動へのご意見・ご感想を教えてください。



オリジナルエコバック



完成した作品



体験の様子

第34号 令和5年3月6日発行

発行 「あらかわの心」推進運動区民委員会事務局  
(荒川区子ども家庭部児童青少年課内)  
〒116-8501 荒川区荒川2-2-3  
TEL.03-3802-3111(内線3833) FAX.03-3802-3174

<Eメール> arakoko@city.arakawa.tokyo.jp

<ホームページ>

右記QRコードから、「あらかわの心」推進運動のホームページにとぶことができます。



〒116-8501

東京都荒川区荒川2-2-3

荒川区子ども家庭部児童青少年課内

あらかわの心ニュースアンケート係

## — 汐入小学校創立20周年によせて — 荒川区立汐入小学校PTA 会長 関 慶人

令和4年10月29日、汐入小学校創立20周年を記念して式典・祝賀会を行いました。コロナ禍という厳しい状況の中、3年振りに来賓をお迎えして、いずれの会も280名を超える方々にご参加頂き、盛大にお祝いする事ができました。

式典では、在校生を代表して5、6年生が出席し、「祝いの言葉」では汐入の街の歴史を語り、また校歌をはじめ複数の楽曲では力強い歌声を奏で、会場に大きな感動を与えてくれました。場内では、あちらこちらで旧交を温める姿も見受けられ、皆さん一人一人がとても素敵な笑顔に包まれている様子を拝見していると、無事に周年行事が行われた事を本当に嬉しく思いました。

「いっぱいぽが れきしをつくる」、汐入小学校の校歌の一節です。卒業生・在校生が築きあげてきたこの歴史を大切に、私も地域の一人として次の世代へ繋いでいければと願っております。



式典の様子

## レインボーの活動について

荒川区立尾久西小学校5年  
レインボー子ども会 副会長 中川 璃乃

レインボー子ども会では、さまざまな活動をしています。

去年はパラシュート作りや、尾久っ子ワクワクまつり、ハロウィン、クリスマス会などを行いました。

その中でもハロウィンはとても楽しいイベントです。尾久地区委員会の皆さんにも参加していただき、いつもより賑やかなハロウィンイベントになりました。

当日は自分の好きな仮装をして集まりました。地区委員会やレインボー子ども会育成会の皆さんも、色んな仮装をしていて面白かったです。集合してから、グループになって近所をまわります。地図を用意してくれたので、迷わずに簡単にまわることが出来ました。小さい子も参加していて、とても楽しそうにしていました。また参加したいです。

今後もみんなで楽しく、色々な活動をしていきたいと思ひます。



みんなで記念写真

## 「ドンとやろう大会」 四中生ボランティア大活躍!

荒川区青少年育成荒川地区委員会  
副会長 松尾 真人

荒川地区では、令和4年11月13日(日)に第三峡田小校庭で「ドンとやろう大会」を3年ぶりに開催しました。各団体及び官公署によって設けられた10か所以上のコーナーを、子どもたちは「どれをやろうか」とワクワクしながらとても楽しそうに回っていました。

第四中学校からは、10月のこどもオリンピックに続き、この「ドンとやろう大会」にも30名近い生徒がボランティアとして参加し、積極的に子どもたちの世話や誘導に活躍してくれました。また場外誘導には近隣町会の皆さんのご協力をいただきました。

今回は感染症拡大防止のため午前中だけの開催とし、食品の提供も中止しましたが、子どもたちはもちろん、家族の皆さんにとっても思い出に残る楽しい半日になったことと思ひます。

来年こそは“フルスペック”の大会を開催し、子どもたちの笑顔がたくさん見られることを願っています。



荒少連による「なぞなぞラリー」の説明



## BOUSAIフェス

西尾久八丁目町会 町会長 堀江 利明

令和4年10月23日(日)、尾久第六小学校にて、尾久消防署・尾久第6分団消防団・尾久第六小学校のご協力を頂き、新しいスタイルの防災訓練を二部制で開催しました。

第一部では、子どもから高齢者まで200名を超える参加者ととも、楽しみながら学べる「災害時の心得」を教えていただき、初期消火などの訓練を行いました。また、災害時の電話のかけ方や、消火器での消火方法、煙に巻かれる体験も興味深く、今回の訓練で体験することが出来ました。町会が用意したゲームブースでも皆さんの笑顔や笑い声があふれていました。

第二部では、バトントワリングチーム「NKEシャイニングスター」の皆さんに、演技を披露していただきました。素晴らしい演技に大きな拍手が起こっていました。

そして、最後は「お楽しみ抽選会」。青空の下で笑顔がいっぱい、町会の皆さんと共に有意義な1日を過ごすことが出来ました。



訓練の様子

## 新春たこあげ大会

荒川区青少年育成南千住地区委員会 板井 亮師

年が明けた二週目の日曜日に「新春たこあげ大会」を毎年開催しています。今年も感染症対策を万全にして、小学生約100名の参加者と各小中学校の校長先生や警察の方々にもご参加いただき、大変盛大に開催することが出来ました。

凧は、低学年の子どもたちは保護者と一緒に、高学年の子どもたちは1人で作れるような比較的簡単なものです。中学生ボランティアの生徒たちが作り方のサポートをしていて、そういう光景を目にするとても微笑ましいです。凧の形は同じですがそれぞれ好きな絵柄を描き、テープの貼り方や作り方も個性があって、みんな違うものができあがりました。

できあがった凧を持つ子どもたちの笑顔がとても印象に残ります。グラウンドでの凧揚げは格別な思い出になった事だと思ひます。このような行事でいろいろな体験を記憶に留めてもらえる嬉しい限りです。

運営に対して御協力いただいた多くの皆さま、心より感謝申し上げます。



完成した凧



## 「子ども村」での夕食作り



尾久母の会 会計 瀬戸 啓子

尾久母の会は尾久警察署傘下の団体として、尾久地区町会の代表者が理事となっています。

コロナ禍のために多くの行事が中止となり、地域の子どものために何か協力できないだろうか役員同士で模索していましたが、「中高生ホッとステーション」の大村代表にご相談し、毎月第二木曜日の夕食作りを令和2年8月から担当することになりました。

現在は1班3人の7班体制で取り組んでいます。料理は得意分野ですから、毎回バラエティに富んだメニューで夕食を提供しています。沖縄のソウルフード「タコライス」を作った時は、「えっ！タコライス！」と、とても喜んでいただきました。秋の松茸ごはんや、冷しゃぶサラダ、岩手のはっと汁のような珍しい夕食も登場します。

愛情たっぷりの手作り料理を皆さんが「おいしい！」と召し上がってくださることは、この上ない喜びであり、幅広い年代の皆さんが集まる場所で私たちも一体感を味わえる、楽しいひと時であります。



愛情たっぷりの手作り料理